様式1 令和2年度　山梨県立あけぼの支援学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

山梨県立あけぼの支援学校校長　佐田　弘和

学校目標・経営方針	「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大限に引き出す教育を行う

本年度の重点目標	
1	子どもの可能性を発見して支援する教育を推進する
2	安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育を実践する
3	共に豊かな人生を共有する教育を目指す
4	施設設備の改善

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価						学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（2月8日現在）		実施日 （令和3年3月2日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	子ども可能性を発見して支援する教育を推進する取り組み	ICF（国際生活機能分類）を活用した学習活動の考え方を中心にした、学習で獲得した知識及び技術をどのように使うことでできるのか、またその資質能力を獲得するための教育課程の編成及び個別の指導計画作成の検討	学校評価アンケート（保護者・教員）/記載された指導計画・指導の概要の検証	○個別の指導計画の記載については、今年度分作成に向けて4月当初の職員会議で1回、次年度分作成に向けて12月の職員会議で1回、全体説明を行った。特に12月では、教科等の評価において3観点別となるよう徹底を図り、教科領域を合わせた指導については教科・領域名を明示するよう連絡した。自立活動の部分については、自立活動係と連携してマニュアルを見直し、係から説明をしてもらう中で記載内容の充実を図っている。学校改善点検シートにおける評価等から、記載内容についての理解が進んでいると思われる。	A	○各教科等において、「何ができるようになるか」「どんな力をつけるか」という内容の記載を促しながら、観点別評価が行えるようにするために、実際どのような計画・評価が行われたかを検討し、作成に役立つ具体例などの資料を提示する。 ○自立活動については、今年度・来年度研究から、指導の時間ごとに立てている計画様式を、指導の目標ごとに計画を立てるようにするかどうか検討していく。	3	○自立活動の検証と内容や指導法の検討を行うことは、支援教育の専門性にも通じることであるため、今後も継続して、その工夫点や効果について、検証を行って欲しい。 ○コロナ禍で難しいところもあるが、先生方がモチベーションを高める様々な取り組み・工夫をされているのが分かった。 ○引き続き、職員間で情報共有を行っていただき、御指導願います。 ○多角的な視点を取り入れ、生徒の可能性に着目していくことは良いと思う。 ○キャリア教育の視点も個別の指導計画や教育支援計画に加え、将来への移行支援のイメージ像を考察できると更に良いと思われる。 ○キャリア教育も進み始めたばかりで、まだイメージが持てていないのではないか。今後、児童生徒や保護者に向けて情報提供をどうしていくのか、どのように対応するのかが課題になると思う。
		個別の指導計画作成マニュアルに則った作成方法の指示と年間計画の設定	学校評価アンケートの実施（教員）/記載された指導計画・指導の概要の検証	○自立活動の基礎的な理解、自立活動の個別の指導計画の作成への理解等の研修を通じて助言を行うことができた。	A	○自立活動における望ましい個別の指導計画の作成の推進ができた。本校における自立活動についての在り方について、昨年度の研究から積み重ねることができた。今後は実際の教育課程に合わせてよりよい指導を計画、実践を積み重ねていきたい。		
		活用できる個別の支援計画とするための記述内容の検討	学校評価アンケートの実施（保護者・教員）/関係者会議等における活用状況	○個別の指導計画と同様、教育支援計画についても、今年度分作成に向けて4月当初の職員会議で1回、次年度分作成に向けて12月の職員会議で1回、全体説明を行った。今年度より、関係者会議に出席する際の資料提供を前提としているところだが使用されなかったケースとその原因について12月に説明し、次年度以降活用できるような内容で作成されるよう資料に特記した。学校改善点検シートにおける評価等から、記載内容についての理解が進んでいると思われる。	A	○今年度の取り組みについて、来年度当初に再度説明して、関係者会議に出席する際の資料提供を促進する。また来年度も、関係者会議における個別の教育支援計画の活用状況を調査し、会議の内容に資することができるような計画の作成に向けて、意見を集めていく。		
		新学習指導要領に基づいた自立活動の検証と内容や指導法等の検討	学校評価アンケートの実施（保護者・教員）	○昨年度からの手順を確認してから今年度の研究に取り組めたことで、新任の教員も内容を理解して取り組めた。 ○小グループでの研究のため、じっくり取り組むことができた半面、学校評価の結果から、全員が意見を言い合える環境づくりにはまだ課題が残る。 ○意見が言いにくい環境の一因として、センター入所生が多いクラスなど、児童生徒とかかわる機会がなかったりしたこともあるのではないか。	A	○継続の研究の場合は前年度の振り返りをする時間が必要。来年度は今年度の研究の継続となるため、同様にしたい。 ○研究のテーマとして、身近なテーマを取り上げることが大切。また、動画等を活用して共通理解を深める工夫も呼び掛ける。 ○今年度、センター生と通学生がいたクラスは特に共通理解が難しかった面もあると思うが、来年度はクラス編成が替わるため、改善される部分もあると思われる。研究のグルーピングについては学習グループを基本とするが、変更が必要な場合は学部の判断に任せる。	4	○コロナ禍の中で、できることを模索し続けていく姿勢は素晴らしい。ヒヤリハット事例もその検証と今後の改善策を考察することで、有効性を増すと考えられているため、全職員で今後も共有していって欲しい。 ○感染症対策もしっかり行っています。引き続き必要な対応を行っていただければと思います。 ○このことについては頭が下がります。有難うございます。 ○こういう状況下でもできることをやっていただいていることが分かる。安心して通わせることができるのではと感じた。 ○コロナ禍の中で、先生方が工夫されていることがよく分かった。引き続き感染性対策を取り組み続けて頂きたい。 ○感染症対策をしながらも、日々リスクがある場合は、一つ一つ検証していかなければならないと思う。 ○インフルエンザでも死亡者が出るので、あけぼの医療センターでクラスターが起こると大変なことになると恐れている。
2	安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育を実践する取り組み	大規模災害時等の職員の対応の再検討 危機管理マニュアルの実践と検証による再検討	マニュアルに沿った避難訓練等の実施と評価及び アンケートの実施	○自衛防災組織班を再編成して、班の活動内容を明確にした。また、班活動の訓練を行った。 ○コロナ禍の災害発生に備え、感染予防を講じた避難及び保護者への引き渡し訓練を計画し実施した。 ○防災倉庫の整理・点検・補充を行った。	A	○班活動の訓練を行うことで、災害発生時に迅速に対応できるようにし、教職員の意識を高めることができた。新たな方法の引き渡し方法に取り組み、様々な災害に対応できる手段ができた。今後も教職員、児童生徒の防災意識の向上に取り組み、災害に対応できるようにしていく。 ○防災倉庫内の備蓄品、防災用具の補充や見える化をし、災害時に対応しやすくなった。定期的な点検と、必要物品の買い替え、補充を行う。		
		スクールバス緊急対応を含めた安全運行に関する取り組みの強化と医ケア児のスクールバス乗車の方策の検討	保護者会と学校との連携の充実と、医ケア児乗車の方策の事案作成 学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）	○スクールバス利用保護者会を年3回実施することができ、スクールバス規程の改訂内容等、運行に関わる内容について共通確認することができた。緊急時における連絡手段としてスクールバス利用保護者会としてのグループメールを作成した。また、緊急時における対応手段を保護者会において再確認することができた。	A	○引き続き、スクールバス利用保護者会を開催し、保護者会との連携を行っていく。また、今年度作成した、スクールバス利用保護者会における一斉メールを活用した、スクールバス運行時における緊急時対応訓練を実施する。		
		感染症蔓延防止に向けた、研修の実施と発生時の適切な対応の徹底	学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）/取組や実施状況	○新型コロナウイルス感染症蔓延防止に向け、対策の検討と共有場所の消毒など実践に努めた。感染症予防研修会を実施し、嘔吐物処理の実技研修を行った。研修後のアンケートで出された疑問点を踏まえ、新しく嘔吐物処理のマニュアルを作成し、周知した。	A	○引き続き、新型コロナウイルス感染症等感染症の蔓延防止に向け、啓蒙に努める。感染症発生時には迅速に情報収集及び対応策の検討をする。		
		事故防止に向けた、すべての教育活動におけるインシデント・アクシデントの報告・分析とその解決策や予防策の提示及びその実践	学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）/取組や実施状況	○事例を蓄積・分析し、朝礼で防止策と重点目標を毎月提示した。12月からは、職員会議で丁寧に分析について説明したり、研修後にクラスで話し合いの時間を設け、影響度分類レベル0を中心に事例を挙げてもらったりすることで、意識の向上を図った。	A	○年度の初めに、事例を蓄積する意義を全校に周知する。事例を蓄積していくため、保健関係の研修会の後にクラスで話し合いの時間を作りインシデント・アクシデントレポートを提出してもらい、事故防止に向け意識を高められるようにする。		
		食形態や摂食指導方法の研修を充実し、学校全体でのスキルの維持充実と、安全な給食指導の実施	学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）/取組や実施状況	○新型コロナウイルス感染症対策のため休校等により行事等の日程変更があったが、ほぼ計画していたものが実施でき、学校全体での摂食指導の技術向上を図り、安全な給食指導の実施に努めることができた。また、担任から出た児童生徒の摂食の課題などを分掌で検討し、摂食指導医や栄養給食科と連携を図りながらよりよい給食指導に努めることができた。	A	○引き続き各種研修会や週2回の給食係の巡回を行うなどして摂食指導の技術向上を図っていく。また、摂食指導医やOT、PT、STなどと連携を図り、アドバイスをいただきながら児童生徒の安全な給食指導を目指していく。		
		学校看護師の更なる身分改善と職員間の連携強化	週7時間勤務による成果と課題の検証 学校評価アンケート（教員）	○学校看護師1名の勤務時間が1時間延び、学校看護師が会議に参加しやすくなり、直接看護師から意見を聞きやすくなった。日常や会議の場で児童生徒の情報共有に努めた。	A	○学校看護師の常勤化について県の会議において要望していく。学部会や朝礼等において児童生徒の情報提供を行い、職員間での情報の共有及び連携を図る。		
3	共に豊かな人生を共有する教育を目指す取り組み	本校の専門性を地域に提供し、肢体不自由の特別支援学校の特色を生かした地域支援活動の推進	学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）/地域支援セミナーのアンケート	○小学校肢体不自由支援学級担任からの要請を受け、日常生活指導や学習などへの支援を行った。また、専門家を帯同し、身体の動きの評価や自立活動で取り組むとよい内容についての助言、机・椅子の調整などを行った。 ○就学時や進学生徒に対して特別支援学校の教育内容および合理的配慮に関する情報を提供できた。	A	○支援学級担任のニーズを拾い上げて、必要な情報を提供していくようにする。 ○小1がバス乗車できるようになったことで、本校に就学を決めた家庭があった。就学や進学の相談時には引き続き、特別支援学校の教育内容および合理的配慮に関する情報提供をしていく。	4	○新型コロナウイルス感染症の関係で難しいことが沢山あったと思う。 ○今後も引き続き地域とのつながりを視野に、個の様子や家庭の願いを加味して進められることを望む。 ○ホールページの更新など、発信にも意識が向いていることは大切であるため、今後も専門家を活用しながら外部からの支援と内部の質の向上も行っていって欲しい。 ○関係機関等とも連携して取り組まれていると思います。ホームページの内容等も工夫されているとのことで良いと思う。 ○医療センターにおいても、児童相談所の対応などがあり、契約の入所者についても、肖像権も問題があってオンラインの活動が難しい。SNSでは困るという親御さんもいるので悩むところである。 ○医療センターでは活動の様子などをお便りなどで直接保護者に向けてお知らせするようにしている。
		学校ホームページを充実し、学部や分掌等からの本校の特色の情報発信	内容の検討と検証 学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）	○ホームページのリニューアルに伴い、より分かりやすいページ構成に改善を行った。 ○通常の情報発信に加え、新型コロナウイルス対応に関し、関係する係と連携しながら、お知らせや家庭学習ページの発信を随時行った。	A	県の事業によるホームページデザインの変更にいち早く対応し、見やすいページが構築でき、主に休校中に学習ページの活用もしてもらえた。しかし、年度の後半は新規の情報が少なくなり更新が減ったので、年間を通じた情報発信ができるコンテンツの検討が必要である。		
4	施設設備の改善に向けた取り組み	必要な備蓄品の整備計画の立案	学校評価アンケート（保護者・児童生徒・教員）/取組や実施状況	○安全点検と職員作業等において、児童生徒が安全に学校生活を送ることができるように環境を整えることができた。 ○コロナ対策として、消毒作業の推進をすることができた。	A	○安全点検等を行う中で、その都度確認し、迅速に対応することができた。問題個所の対応につては、関係分掌や管理担当者、事務室と連携を図りながら対応する。 ○小動物や害虫への対応を事務室と連携して行う。	4	○医療センターの児童・生徒たちも、先生方にはお世話になり、通学生と教室を分けて授業をするなど難しい対応して頂き、感謝している。 ○コロナ禍で、できる範囲が限定されてしまいがちだが、子供たちの成長過程を考えると、教育の機会をさらに提供できる体制を引き続き模索して欲しい。 ○様々な配慮が必要となる中、環境整備に努めていることが伺えました。 ○予算の問題もあるので難しいですね。
		医療的ケアを必要とする児童生徒の教室の確保	学校評価アンケート（教員）/取組や実施状況	○毎月医療的ケア実施内容と回数を集計し、医療的ケアの実施状況の把握を行った。医療的ケア対象児童生徒の次年度の使用教室について実施状況を基に検討を行った。	A	○引き続き医療的ケアの内容と回数等実施状況の把握を行う。酸素使用やアレルギーによる使用教室の配慮点等について情報提供を行い、全職員で共通理解できるようにする。		
		医療的ケアの児童生徒を含めた食堂・ホールの安全対策	学校評価アンケート（教員）/取組や実施状況	○新型コロナウイルス感染防止対策に取り組み、食堂・ホールの3密を避けた座席配置、換気の徹底、グローブ・フェイスシールドを全職員に提供し、職員が感染防止に向けて取り組む環境を整えることができた。しかし、複数の職員が食事中の児生を囲まないように徹底するところが若干不足した。 ○下膳時のノロウイルス等嘔吐処理マニュアルを作成できた。	A	○引き続き栄養給食科、事務室、保健係と連携を図りながら食堂、ホールの安全対策に努めていく。		

留意点 （1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。